

## 忘れられない「贈られた言葉」

幼稚園の卒園式から大学院の卒業（修了）式まで、園長、校長、学長の諸先生から何度か贈られた言葉がある。が、今となっては、残念ながらその一言さえも覚えていない。ただし、ひとつだけ例外がある。それは東京府中にある運転免許試験場で自動車免許を取得して教習生を卒業するときのことだ。

言葉の主は、白髪まじりのいがぐり頭でおおきな熊のようなおまわりさんだ。そのおまわりさんは、運転免許証をもらって教室を出る直前のわたしたちに次のように短く語った。

「あなたたちはこれで運転免許証をもらって一般の道路に出て行く。これまで、青信号は進め、赤信号は止まれだった。しかし、これからはそうではない。いったん道路に出たらいちばん大切なことは、事故から自分を守りまた相手を守ることだ。そのためには、青は必ずしも進めではない、赤は必ずしも止まれではない。青だって止まらなければならないときがある、赤だって進まなければならないときがある。以上、くれぐれも気をつけて。」

そう語り終わったとき、教室のみんなは思わず拍手をしたのだった。涙を浮かべる人もいた。爾来この贈られた言葉は忘れることなく、人生という道路を運転するわたしを支えるものともなっている。

2015年3月31日

吉田英生